

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4070300647		
法人名	有限会社 八起		
事業所名	グループホーム 新池		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区新池3-3-19 (電話)093-871-4341		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年10月4日

【情報提供票より】(平成19年8月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人 非常勤 7人 常勤換算	7.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	無()	無()	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	56 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山中央病院	野田内科循環器科クリニック
---------	--------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

若戸大橋を臨む旧電車通りの住宅地に、元料亭を改造したグループホーム新池がある。ホームの囲りはよく手入れされた花々が咲き揃い、ホームで飼っている猫が暖かく来訪者を迎えている。1階は広いホールと厨房、オーナーの住居になっていて、夜間など緊急の場合すぐに駆けつけることができ安心である。エレベーターで2階に上がると、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で利用者、職員が穏やかに過ごしている。食事は一人ひとりの状態に合わせて調理し、盛り付けに南天の葉をそっと添える等、ひと手間かけて楽しむことが出来るよう支援をしている。「家庭的な環境の中で自分らしく暮らしてほしい」というオーナーの強い思いで、自由にのびのびと安心した暮らしが営まれているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善点12件中、10件が改善されている。「職員の意見の反映」「継続的な研修の受講」などが、今後の課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が作成している。今後は、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、更なるサービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。討議内容は「家族との外出」「戸畑区グループホーム協議会結成」「ボランティア受け入れについて」「市の指導監査について」などで、出席者から活発な意見や要望が出るなど、双方向的な会議になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からは多くの要望が出され、職員はできるだけ要望に応えられる様、努力し、支援している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	オーナーが長年この地域に住んでいることから、地域との交流は密である。ホームの外周りを掃除しながら、ホームで飼っている猫の話題などで交流を図り、地域との連携に繋げている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた町で自分らしくいつまでも暮らし続けられるよう、家庭的な環境を提供し家族の一員として不自由な面を手助けすることに努めます」という、地域生活の継続支援を謳った理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議時に理念を唱和し、理解を深めるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オーナーが長年この地域に住んでいることから、ゴミ出し、外周掃除の時等、地域の方と猫の話で盛り上がり、交流は密である。ホーム前に住んでいる高齢者の手助けをしたり、小学生の慰問を受けたりして、地域と密着している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を十分に活かして、熱心に改善に取り組みサービスの向上に努めている。		今後は職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、更なるサービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。出席者からは活発な意見や要望が出され、双方向的な会議が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に包括支援センターを訪問し、市の関係者との関わりが少しづつ出来てきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>該当する利用者が1人いるので、代表者が任意後見人となって関わっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回利用料の支払い時に報告をしている。その他、病院受診時にはその都度電話で報告している。3ヶ月に1回、ホーム便りを発行している。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口があり、家族からの意見、要望が活発に出され、サービスの質の向上に反映している。</p>		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はないが、異動がやむをえない場合も引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の採用時には、性別、年齢を問わず採用している。職員についても、希望日に休日が取れるよう配慮し、生き甲斐をもって働けるよう工夫している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>人権に関するビデオなどを利用し、人権教育、啓発に取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務ローテーションの問題などから、段階に応じた研修を受ける機会の確保が十分ではない。</p>		<p>勤務ローテーションを工夫し、研修に参加できる様努力し、その研修内容を内部で勉強会を開き、職員が共有できる体制が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	戸畑区の6事業所のグループホームで「グループホーム連合会」を立ち上げ、情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に繋げている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族は、ホームを見学し、納得した上で入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に過ごし、支援する側、支援される側という意識を持たず、支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を細かく把握し、本人の視点に立って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会議、3ヶ月に1回の家族との話し合いで意見、要望を出し合い、介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化に応じ、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らして行くため、家族と一緒に北九州空港へドライブや花火大会、お祭りなど、外出の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関の受診の支援が出来ている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針をつくり、利用者や家族と話し合い、確認書にサインをもらい、職員全員で方針を共有している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底することを、職員会議時に話し合っている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は決められた日課などは無く、カレンダーを作ったりトランプをしたり、利用者のその時の気持ちを尊重し、支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付けを工夫し、食事を楽しめる支援をしている。準備、片付けは一緒に行ない、利用者と職員が同じテーブルについて食事を楽しんでいる。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴できるよう努力している。入浴を拒む人に対しては、細やかな配慮、工夫をして、入浴できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの身体機能や状態に合わせ、テーブルを拭く係り、トイレトペーパーを交換する係り、猫の世話をする係りなど役割を決め、メリハリのある日々を過ごせるよう支援している。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じる努力をし、散歩や買い物、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を行っている。		災害に備え、食料、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。また、早急な避難路の確保が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、トロミ食、ミキサー食、キザミ食など栄養摂取に配慮し、食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周りに季節の花が植えられ、玄関や廊下の壁には手作りの作品などが飾られ、家庭的な雰囲気である。姿勢の悪い利用者に職員手作りのダンボール製椅子を用意し、姿勢を矯正し、心地よく過ごせるよう支援している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者を使い慣れたタンス、仏壇、ベッドなど、馴染みの家具を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮している。		